



学校だより

平成 28 (2016) 年 9 月 17 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

《 ある日の補習校のようす 》

先日、ホールでは保護者座談会が行われていました。日本語と英語を、相互に使いこなすことができる補習校卒業生 2 名を講師に招いて、勉強会が行われていました。その講師の一人は、日本からニュージーランドへ渡航した学齡が、小学部 4 年生の頃でした。英語はほとんど話すこともできず、日本語を母語として少しずつ英語の語彙を増やす努力をされたそうです。1 年、2 年とニュージーランドでの生活が経過する中、日本語力の維持・向上のため補習校の勉強は継続して取り組み、特に、家庭ではお母さんとの会話を頻繁に行い、併せて日本語で書いてある本（漫画の本も含む）の読書は、好んで続けたそうです。中学部に入ってから、補習校の勉強は苦にならず、友達と一緒に補習校で勉強を続けていきたいと思うようになったそうです。今でも補習校で学んだ日本語が基礎基本となり、日本語で新しい知識を深く学ぶとき、大変役に立っているそうです。



※「海外で育つバイリンガル作文力〜トロント補習授業校の実態調査を踏まえて〜」中島和子氏（トロント大学名誉教授）については、2014 No. 494 『海外子女教育 4 月号』に掲載されています。

同じ日、小学部 3 年生の児童がグループごとに、私の所へ「日本の学校生活」についてインタビューに来ました。予め質問する内容をグループごとに考え、だれが何について聞きたいか、メモを作成してきました。質問項目の一部を、紹介します。「学校給食が始まった理由」「ランドセルが使用されている理由」「学校ではどんな宿題を出しているか」「学校生活の一日の予定」「どんな特別教室があるか」「登下校が徒歩の理由」「私服で登下校する理由」等です。3 年生の児童は、日本の学校生活が現地校と違うことに疑問を持ち、「もっと調べてみたい」「なぜ違っているのだろう」という興味や関心、あるいは疑問から、児童の学習意欲をかき立てるエネルギーになっています。

3 年生の国語の教科書では、「つたえよう、楽しい学校生活」の学習で、グループ内で分担しながら発表メモを作り、学級内で発表会を行います。指導のねらいは、「①司会や提案などの役割を果たしながら話し合う。②必要な事柄を調べたりインタビューしたりする。③伝えたい目的と内容を明確にして、言葉遣いや視線などに注意しながら話す。」の三点です。この様な学習機会を通して、友達が発表した大切な事柄を的確に聞き取り、自らの考えを深め、より良い考えを生み出す力になります。

ホールでは、毎週、昼過ぎから「よさこいソーラン」の練習が行われています。小学部 4 年生以上の児童・生徒が、自主的に参加しております。指導は、保護者の方のご厚意とご支援により、毎年行われています。下級生の児童の中には、練習に参加するのは今年度からという児童もあり、全体練習に時間がかかります。毎年練習に参加している中学部の生徒は、下級生に動きや技の手本を示しながら練習に励んでいます。



同じく昼過ぎには、小学部 1 年生の教室前広場で、1 年生から 3 年生までの児童が自主的に参加して、音楽に合わせて楽しそうに踊っています。こちらの指導も、保護者の方のご厚意とご支援により行われています。今後、練習が進んでいくと、踊りの輪がさらに広がっていくものと思います。また、放課後のホールでは、中学部の有志が、教員の指導のもとダンスの練習に励んでいます。振付は教員と生徒たちが考え、動きやすいものにして、楽しそうに踊っています。



児童・生徒は、ダンスや踊りの練習を通して、演技者が互いに協力しながら演技者全体の完成度を極めていくところに喜びを感じ、達成感や成就感を味わうこととなります。児童・生徒一人ひとりが、わずかな時間を活用して、自分から進んでやってみたい、体を動かして表現してみたいという思いが、その子を前向きに挑戦させていくものと思います。ダンスや踊りを指導されている皆様、そして、サポートや手助けを頂いている皆様に深く感謝申し上げます。今年の補習校祭り（11 月 12 日開催）では、日頃の練習の成果を発表してくれるものと楽しみにしています。今後ともよろしくご指導、ご支援をお願い申し上げます。